

米国における里親の互助に対する評価の整理

二村 玲衣

1. はじめに

本稿は、先行研究の整理を通して、米国において里親の互助活動がどのように評価されてきたのかを明らかにするものである。

日本では、1947年の里親制度創設以後、里親支援は長らく里親会における互助関係に任されてきた。2000年代から制度的な里親支援が拡充され始め、児童養護施設、乳児院、児童家庭支援センター、NPO法人等の民間支援機関等が里親支援に関わる動きが広まり、支援の実践も蓄積されてきている。さらに、2017年の「新しい社会的養育ビジョン」や2018年の「フォスタリング機関（里親養育包括支援機関）及びその業務に関するガイドライン」といった今日の里親制度の指針となっている政策文書では、里親と上に列挙した支援機関や地域の諸機関がチームとなり養育を進めていく方向性が示されている。そこでは、里親自身と機関との連携や、里親会の活用について触れられてはいるものの、里親会という当事者組織によってこれまでに蓄積されてきた支援のノウハウや成果の活用、当事者間の支援のメリットに関して踏み込んだ記述はなく、今後、里親支援において互助をどのように活用していくのか方針として明らかでない。

また、日本における里親支援研究の中でも、里親会に焦点を当てたものは多くない。里親会による里親支援の意義や効果については、伊藤(2016)や澁谷(2010)、佐藤・松澤(2017)等による研究成果を参照できるものの、蓄積の途上にある。そこで本稿では、米国内を研究対象とした里親の互助に関する先行研究を整理することにより、米国で里親の互助がどのように評価されてきたのかを明らかにする。里親制度の先進地であり、里親養育の実践や研究に関して多くの蓄積がある米国での評価を明らかにすることにより、今後の日本における里親支援の制度や調査研究に対して、互助の活用という視点から示唆を与えることが本稿の目的である。

2. 米国における里親制度と互助組織

(1) 米国の里親制度の概要

米国では、保護された子どもの多くが、親戚・親族里親を含む里親家庭で養育される。米国の里親制度は、1980年のAdoption Assistance and Child Welfare Act（養子縁組支援および児童福祉法）を契機とした子どものパーマネンシー保障の動きにより、親子再統合もしくは養子縁組によって子どもたちが安定した恒久的な家庭をもつことを積極的に目指している。1997年にはAdoption and Safe Families Act（養子縁組および安全家族法）が成立したことで、子どもがフォスターケアに入ってから12ヶ月を経過しても親子再統合への進歩が見られないと判断された場合、親権停止の手続きをとって養子縁組等の子どものパーマネンシーを保障できる計画へ切り替えることとなった（栗津, 2017）。したがって、日本でよく見られる養育里親家庭への長期委託は米国において一般的でない。実際に、米国で

2020年に新しく里親家庭に委託された子どもは21万6,838人、委託解除となった子どもは22万4,396人おり、解除となった子どものうち48%は親子再統合、25%は養子縁組されており、平均委託期間は20.5ヶ月である(U.S. DHHS Children's Bureau, 2021)。

里親養育の種別は州によって呼称や分類が異なるが、おおよそRelative/Kinship Foster Care、Traditional Foster Care、Treatment Foster Care、Medical Foster Careといった区分がある。里親となる場合、まずは居住地域で里親制度を運用している機関に連絡を取り、オリエンテーションを受け、家庭調査等の審査が行われる。そして、審査を通過した後研修を受け、子どもが委託されるまで待つというプロセスを経る¹。

制度運用の方法は州によって少しずつ異なるが、各州のDepartment of Child Protective Services or Human Servicesの監督下で公的機関や民間機関によって里親・養親の募集や委託、委託前後のケアが行われている(以下、便宜上この機関をフォスターケア機関と呼ぶ)。この機関には、日本でいうところの大舎型児童養護施設、ファミリーホームに似た機関や、里親事業に特化した支援機関もある。さらに、任意で設立されたフォスターケア機関の中には、宗教や特定の民族、文化集団に焦点をあてたものもある(Colton & Margaret Eds., 1997(庄司訳, 2008))。

(2) 互助組織

州や地域単位で里親協会があり、これが日本でいう各都道府県里親会等の互助組織に近いものと考えられる²。これらの組織がどのようなものか把握するため、カリフォルニア州里親協会とニューヨーク養親・里親連合を例に概要を述べる。カリフォルニア州里親協会は、里親をサポートするシステムを作ろうと考えたサンフランシスコの里親たちによって1972年に設立された。現在、州内に25の支部があり、各支部では年1回研修会議が開催されている。同会は州、地域、国の児童福祉関係機関と関わりをもちながら、政策への提言や、コミュニティにおけるパートナーシップの構築に努めている(CSFPA, n.d.)。ニューヨーク養親・里親連合も同じく当事者によって設立されたもので、主に養親、里親、里親OB、実親等で構成されている。養親や里親、その家族へ向けた情報や研修プログラム、サポートグループを提供しているほか、行政や社会に対するアドボカシー活動も行っている(AFFCNY, n.d.)。支部組織による地域的なサポートを行いながら、情報提供や研修、アドボカシー活動を実施している点で、これらの組織は日本における都道府県の里親会・養親の会に近い役割を果たしているといえよう。

また、州や地域単位で設けられている里親協会の他にも、全国規模の互助組織として全米里親協会が存在する。これは非営利の民間組織で、里親のボランティアによって組織され運営されており、機関誌の発行、全国大会の開催、広報や研修に関わる事柄等幅広い活動を行っている。全国規模の団体という性質から、個々の里親に対する直接的な支援活動というよりも、里親全体に向けた活動を中心に実施している(NFPA, n.d.)。

ただ、全ての里親が互助組織に参加し、支援を受けているわけではない。Barnett et al. (2018)の調査によると、米国北東部のある州では州の里親・養親協会を知らない人は8.29%、知っているが利用したことのない人は52.33%、利用したことがあるまたは参加した人が39.38%であった。互助組織に比べ、フォスターケア機関等の専門機関による支援が多く利用されており、他の研究報告でも同様の結果が出ているという。また、全米里親

協会に所属しているのは米国の里親の1%に過ぎないとする論文もある (Pasztor & McFadden, 2006)。

なお、地域によってはこうした組織の他にも、フォスターケア機関やその他支援団体によってメンタリングプログラムやピアサポートグループが設けられており、その中で互助活動が展開されている。本稿では組織の有無や態様に関わらず、里親が里親支援をすること自体への評価を明らかにしたいため、このような組織化されていない互助活動に対する評価についても先行研究整理の射程に含めることとする。

3. 文献の収集

文献の収集は、主に学術情報データベースである ProQuest を用いた。収集した文献の選定にあたっては、①調査や研究の成果として里親の互助に対する評価をしていること、②米国内を研究の対象としていること、③学術誌に掲載された査読付き論文であること、④英語で書かれていることという4つの基準を予め設定したが、その後作業上の都合から、⑤後述する特定のテーマが文献に付与されていることを基準に加えた。上述した本稿の目的に沿い、里親養育の種別や互助のあり方による制限は設けなかった。

収集は以下の手順で行った。まず、2021年11月12日に ProQuest 上で、学術誌に掲載された査読済みの英語文献のみが検出される設定のもと、検索式 "foster parents" AND (association OR mentoring OR peer OR "support group" OR self-help) によって文献検索を行った。その結果、4,779件の文献が該当した。これら文献の全てを精査することは困難であるため、次に、データベース上で文献に付与されているテーマによる絞り込みを行った。4,779件の文献に付与された上位100件のテーマのうち、整理の対象とする文献に関連するテーマは "foster care"、"parents & parenting"、"foster home care"、"parenting"、"foster carer" の5つあった。これら5テーマのいずれかが付与されていることを検索条件に加えると、検出結果は1,407件となった。このうち、書評や学会発表要旨といった論文以外の文献と、タイトルや抄録から里親の互助を研究対象に含んでいないことが明白である文献を除くと、67件に絞られた。ここで除外された文献の多くは、里親に委託された子どもの支援について述べているものや、専門機関・専門職が実施する里親支援について述べたものであり、里親と実親の coparenting に関するものも複数見られた。ここから、米国内を調査対象としていない論文22件を除外し、45件を精読した。精読により、調査や研究の成果として里親の互助に対する評価をしている論文を抽出した結果、該当する論文は12件あった。

そして、これら12件の論文の参考文献から里親の互助に関連する論文を選出し、整理の対象に加えると、最終的な整理の対象は24件となった。ここで加えられた12件の論文は、ProQuest 上に登録がないか、付与されているテーマが上記5テーマと異なるか、テーマの登録がないために除外された文献であった。24件の論文のリストは、参考文献に示した。

4. 里親による互助はどのように評価されてきたか

上述の手順で収集した24件の論文における記述を整理すると、里親による互助の評価は大きく7つに分類できた。以下では、各分類においてどのような評価がされていたのか、節ごとに述べていく。

(1) 里親が情報を得る上で役立つ

まず、広く共有されていた評価として、里親による互助は里親が養育に関する情報を得る上で役立つということがある。この役割は各地域の里親協会の成り立ちからも明らかな事実であるため、多くの文献では研究背景に関する記述等の中で述べられていた。一方、調査結果や考察の中で里親互助の意義として評価する論文もあった。

例えば、Pasztor & McFadden (2006) は、里親が地域や州の里親協会、全米里親協会に参加することで、情報や研修の機会を得てきたと述べている。また、Pasztor et al. (2006) のインタビュー調査では、里親は医療機関を探す際に児童福祉機関よりも里親同士のネットワークを頼りにしていることがわかり、強力な地域ネットワークをもつ里親協会が身近にある里親の中には、情報源として里親協会に大きく依存しているという人もいたという。さらに、里親の養育継続に影響する要因を量的に研究した Hayes et al. (2015) の調査結果では、里親が行政サービスを利用する際に他の里親からの情報が役立ったと記されている。ほかにも Jackson (1996) は、キンシップケアにおけるサービス提供のあり方を探求する中で、親族里親や実親、子ども等からなる支援グループは、里親に対して押し付けがましくなく情報を伝える効果的な手段であるとしている。

(2) 感情の共有や相互理解によって里親を支え癒す

里親に委託される子どもは、家庭で暮らす子どもに比べて健康上、行動上の問題をもつ傾向が高いとされる (Fees et al., 1998 ; Bilaver et al., 1999)。一般的な子育て以上に困難や不安を抱えやすい里親養育において、里親間の互助は単に情報を共有するだけでなく、養育生活のうえで積み重なる感情を分かち合う役割も果たしていると評価されている。

里親担当ワーカーの記録を分析した Zlotnick et al. (1999) は、他の里親からの助言やピアサポートを通じて養育に関する困難や不安を共有したり、成功例や失敗例を学んだりすることによって、里親はより良い里親になることができると述べている。また、里親のフォーカスグループへのインタビューを実施した Spielfogel et al. (2011) は、参加した里親からのグループへの参加に対するフィードバックとして、他の里親と交流できた点で非常に有益だったという感想や、他の里親と自分の経験を共有できたことへの感謝を得たと述べている。Barnett et al. (2018) や Metcalfe & Sanders (2012) によっても、里親は他の里親と感情を共有し理解し合うことで学びや心の支えを得られるという指摘がなされている。

他にも、互助グループは里親が委託解除等で子どもを失ったときの悲しみや喪失感、それらへの恐怖を癒す上で非常に価値があり、現在進行形で困難な状況に直面している里親にとって有用であるという評価がなされている (Edelstein, 1981 ; Edelstein et al., 2001)。複雑な悲しみに対する心身の反応には専門家の知識と技術が必要だが、一定程度までの悲しみの反応には互助グループの共感が大きな助けとなるという。

(3) 里親が養育を中止することを防ぐ

米国では里親不足が叫ばれている。およそ 20 年前のデータではあるが、Rhodes et al. (2003) によると新しく里親になった者の最大 40% が最初の 1 年で養育を中止し、20% が中止を視野に入れるという。里親が養育を中止してしまう理由としては、上述したような養育の難しさのほかにも、児童福祉機関の対応の悪さ、サポートの不足等が関係している

(Annie Casey Foundation, 2002)。Buehler et al. (2006) は先行研究レビューを行う中で、多くの里親が子どもの問題行動に対処するための研修や支援を十分に受けられない状況に対して、里親がピアメンターやレスパイトといった支援の存在を認識し、利用して克服していくことの必要性を述べている。

さらに、Rindfleisch et al. (1998) 等の研究では、メンタリングプログラム等を通して他の里親から必要な支援を受けられないことが、里親を辞めることと関連しているということ、すなわち、他の里親から支援を受けることが里親を辞めることを防ぐ可能性が指摘されている。また、これに近い研究結果として Rhodes et al. (2001) は、養育を継続している里親と比較して、里親をすでに辞めた者や辞める予定の里親には里親仲間がいる可能性が低いとしている。そして Hanlon et al. (2021) は、里親養育者の定着には柔軟性、自信、モチベーション等の個人的な特性、委託開始前後の研修への参加のほか、経験豊富な里親からのピアサポートも貢献しているという。

他に、里親候補者の辞退を防ぐことへの効果を示唆するものもある。里親候補者を対象とした調査を実施した Friedman (2019) は、里親候補者は研修等で里親養育について学ぶにつれ「良い里親になれる」「良い子育てができる」という意味での自己効力感を低下させていく傾向があるが、メンタリングプログラムはこの問題を乗り越える上で有用であろうと述べており、里親になる前の候補者に対するケアに里親を活用できることを示唆している。

(4) 里親支援プログラムを開発する上で重要である

これまでの3点とは異なる視点からの評価として、里親の募集や研修、その後の相談援助を含む里親支援プログラムの開発に里親が関わることの重要性を指摘するものもあった。例えば、Noble & Euster (1981) は、効果的な里親トレーニングカリキュラムを開発するためには里親の意見が非常に重要であると述べ、里親の意見を取り入れることで里親と彼らと関わる専門家の両方のニーズを満たすプログラムを実施できるとしている。

治療里親のような、より専門性の高い里親についても同様のことが言われており、Lee et al. (2021) は、治療里親に関する実践者や研究者へのインタビューにおいて、困難を抱える治療里親を他の治療里親がサポートすることの価値が強調されたと述べており、治療里親向けの研修には体験学習やピアサポート、コーチングが含まれるべきだと考察している。また Meyers et al. (2013) は、アルコールや薬物の問題を抱える子どもの里親になることを希望する里親の約半数が、同様の経験をもつ他の里親との接触を希望していたという調査結果を提示した。さらに、こうした子どもを養育した経験のある里親が、里親を募集・指導・支援するプログラムを開発することは、こうした子どもを養育しようとする里親の数を増やすだけでなく、困難に直面した里親が養育を継続できるようになる可能性があると述べている。

(5) 予算の制約の中で里親支援を維持する

里親支援プログラムに里親が関わることの有用性は、予算の面からも指摘されている。Hamilton (2011) は、アーカンソー州の里親担当ワーカーへのインタビュー調査から、同州では感情的な摩耗や制度上の問題、機関のサポート不足といった原因で里親が定着せず、激しく減少していることを明らかにした。しかし、同州の福祉予算は縮小されてきており、

ケースワーク業務の負荷は推奨される業務量の約 2 倍までに増加している。したがって、里親の定着率を向上させるための方策は、最小限の財政的コストで実現しなければならない。そこで Hamilton は、ケースワーカーの現在の負担を軽減しながら里親を支援する方策として、里親を活用したメンタリングプログラムが非常に効果的であるとの考えを示した。また、Cooley et al. (2019) は、里親に対する十分な社会的支援がなされていない現状において、里親担当ワーカーは互助団体や他の里親によるインフォーマルな支援を推奨すべきだとした。また、インフォーマルな支援の利点として、多くの場合フォーマルな支援よりも安く容易に利用でき、里親養育の行財政負担が軽減される可能性があるとして述べている。

なお、行政による調査は本稿の整理対象ではないものの、ここで列挙した研究調査と同様の評価が 2002 年に保健福祉省で行われた調査でも見られる。この調査では、20 州の里親プログラムの管理者が、里親の活用は新しい里親を募集する上で最も成功した方法の一つであると述べており、そのうち 10 州は最も費用対効果の高い方法だとした。このことから、新しい里親の募集や研修・指導に里親を活用することは、新たな里親を育てるための有力な方法であると提言されている (U.S. DHHS, 2002)。

(6) 不利な立場に置かれた里親や子どもを守る

里親協会等の里親による互助団体は、不利な立場に置かれた里親や子どもを守る役割を果たしてきたという評価も見られた。里親協会は里親たちに、里親や子どもに関するアドボカシー活動の機会を提供してきた (Pasztor & McFadden, 2006)。こうした活動には、法制度等の変革を目指すものだけでなく、個人を守り支えることを目的としたものもある。

本稿で整理対象とした文献の中では、Carbino (1991) が虐待の疑いがあると通報された里親に対する互助団体の関与について、ウィスコンシン州やアリゾナ州、ミネソタ州の里親団体を具体例として挙げながら詳述していた。虐待の疑いで通報された里親は、フォスターケア機関や行政機関による援助をほとんど受けられないため、互助団体に助けを求めるといふ。互助団体はこうした里親に対して、中立的な立場から助言や情報提供を行ったり、こうした問題を社会へ発信したりする役割を果たしてきた。

(7) その他

ここまで挙げた里親による互助そのものに対する評価の他に、里親による互助の重要性を認めた上で、どのように実施すべきかを評価した文献もあった。Miller et al. (2017a) は、メンタリングプログラムを実施する際に重要なこととして、メンターとメンティのマッチングをあげており、マッチング前から交流すべきとしている。また、メンターにサポートを提供することの重要性も指摘している。さらに Miller et al. (2017b) の調査結果は、効果的なメンタリングプログラムを構築するためには、メンターとメンティ双方の研修への参加が不可欠であることを示唆している。この 2 つの研究はメンタリングプログラム実施の前段階における準備の重要性を示すものといえよう³。

他にも Finn & Kerman (2004) は、里親がインターネットを利用した支援を受けられるようデジタル・ディバイド介入プログラムを試験的に実施した。このプログラムを通じた調査では、ほとんどの里親がインターネット上で支援サービスを受けることも提供することもなく、他の里親とオンラインでやり取りすることもなく、オンライン上のグループに参加

することもなく、サービスを利用したとしてもごくわずかであり、インターネットを用いた支援の難しさが示された。ただし、これは2004年時点での調査結果であり、今日の状況については他の研究調査等から改めて検討する必要がある。

4. おわりに

以上、本稿では先行研究の整理を通して、米国において里親による互助がどのように評価されてきたかを明らかにした。明らかにした評価のうち、互助の機会によって里親が情報や感情を共有し学びや支えを得られる、そして養育中止を防ぐことができるという評価は、本稿冒頭で列挙した日本における里親互助の先行研究でも見られた。また、互助組織が不利な立場に置かれた里親や子どもを守る機能をもつということは、日本における里親会・里親有志グループの活動においても確認されてきたことである。一方、里親支援プログラムの開発や制約された予算内での支援事業の維持に対する有用性については、これまで目立った言及がなく、今後の里親支援制度の開発や研究調査を行う上でひとつの視点となることが期待される。

最後に、残された課題について述べる。本稿では文献収集にあたり、データベースとしてProQuestのみを用いたため、ここに登録のない文献は整理の対象から除外されている。また、作業上の都合からテーマでの絞り込みを行ったため、上位100件のテーマと異なるテーマが付与された文献についても除外されている。除外された文献の中には、選定された文献の参考文献から回収できたものもあるが、除外されたままの文献も多くあると考えられる。改めてこれらの文献を収集し再整理を行うことで、里親の互助に対する評価をより精緻にまとめることが今後に残された課題である。

[注]

- ¹ CSFPA(n.d.)やAFFCNY(n.d.)等の里親協会のウェブサイト参照した。
- ² 国児童局のウェブサイトには各州里親協会の一覧があり、2021年11月時点で39州・特別区の里親・養親会が掲載されている (U.S. DHHS Children's Bureau, n.d.)。
- ³ この2つの文献ではメンタリング概念を広く捉えており、想定されているメンターはピア(里親)に限らないと考えられる。しかし、考察対象からピアメンタリングを排除していないため、互助に対するひとつの評価でもあると考え、本稿の整理に含めた。

[参考文献]

・先行研究整理の対象とした24件

- Barnett, E. R., Jankowski, M. K., Butcher, R. L., Meister, C., Parton, R. R., & Drake, R. E. (2018). Foster and adoptive parent perspectives on needs and services: A mixed methods study. *The Journal of Behavioral Health Services & Research, 45*(1), 74-89.
- Buehler, C., Rhodes, K. W., Orme, J. G., & Cuddeback, G. (2006). The potential for successful family foster care: Conceptualizing competency domains for foster parents. *Child Welfare, 85*(3), 523-58. Retrieved from <https://www.proquest.com/>

- scholarly-journals/potential-successful-family-foster-care/docview/213808895/se-2
- Carbino, R. (1991). Advocacy for foster families in the United States facing child abuse allegations: How social agencies and foster parents are responding to the problem. *Child Welfare, 70(2)*, 131-49. Retrieved from <https://www.proquest.com/scholarly-journals/advocacy-foster-families-united-states-facing/docview/213813377/se-2>
- Cooley, M. E., Thompson, H. M., & Newell, E. (2019). Examining the influence of social support on the relationship between child behavior problems and foster parent satisfaction and challenges. *Child & Youth Care Forum, 48(3)*, 289-303.
- Edelstein, S. (1981). When foster children leave: Helping foster parents to grieve. *Child Welfare, 60(7)*, 467-73. Retrieved from <https://www.proquest.com/scholarly-journals/when-foster-children-leave-helping-parents-grieve/docview/63662368/se-2>
- Edelstein, S. B., Burge, D., & Waterman, J. (2001). Helping foster parents cope with separation, loss, and grief. *Child Welfare, 80(1)*, 5-25. Retrieved from <https://www.proquest.com/scholarly-journals/helping-foster-parents-cope-with-separation-loss/docview/62271045/se-2>
- Finn, J., & Kerman, B. (2004). The use of online social support by foster families. *Journal of Family Social Work, 8(4)*, 67-85. Retrieved from <https://www.proquest.com/scholarly-journals/use-online-social-support-foster-families/docview/61866068/se-2>
- Friedman, L. (2019). An exploratory study of prospective foster parents' experiences during the licensing process. *Child Welfare, 97(1)*, 135-170. Retrieved from <https://www.proquest.com/scholarly-journals/exploratory-study-prospective-foster-parents/docview/2264892724/se-2>
- Hanlon, R., Simon, J., Day, A., Vanderwill, L., Kim, J., & Dallimore, E. (2021). Systematic Review of Factors Affecting Foster Parent Retention. *Families in Society, 102(3)*, 285-299.
- Hamilton, L. (2011). An Exploratory Investigation of Foster Parent Retention in Arkansas. *Midsouth Political Science Review, 12*, 69-85.
- Hayes, M. J., Geiger, J. M., & Lietz, C. A. (2015). Navigating a complicated system of care: Foster parent satisfaction with behavioral and medical health services. *Child & Adolescent Social Work Journal, 32(6)*, 493-505.
- Jackson, S. M. (1996). The kinship triad: A service delivery model. *Child Welfare, 75(5)*, 583. Retrieved from <https://www.proquest.com/scholarly-journals/kinship-triad-service-delivery-model/docview/213810820/se-2?accountid=12653>
- Lee, B. R., Phillips, D. R., Steward, R. K., & Kerns Suzanne, E. U. (2021). Equipping TFC parents as treatment providers: Findings from expert interviews. *Journal of Child and Family Studies, 30(4)*, 870-880.
- Metcalfe, W. A., & Sanders, G. F. (2012). Foster parent experience: The later years. *Child Welfare, 91(4)*, 127-145. Retrieved from <https://www.proquest.com/scholarly-journals/foster-parent-experience-later-years/docview/1338387931/se-2>

- Meyers, K., Kaynak, Ö., Clements, I., Bresani, E., & White, T. (2013). Underserved parents, underserved youth: Considering foster parent willingness to foster substance-using adolescents. *Children and Youth Services Review, 35*(9), 1650-1655. Retrieved from <https://www.proquest.com/scholarly-journals/underserved-parents-youth-considering-foster/docview/1835667369/se-2>
- Miller, J. J., Benner, K., Thrasher, S., Pope, N., Dumas, T., Damron, L. J., Segress, M., Niu, C. (2017a). Planning a mentorship initiative for foster parents: Does gender matter? *Evaluation and Program Planning, 64*, 78-84. Retrieved from <https://www.proquest.com/scholarly-journals/planning-mentorship-initiative-foster-parents/docview/1944222911/se-2?accountid=12653>
- Miller, J., Benner, K., Pope, N., Dumas, T., Damron, L. J., Segress, M., Slone, M., Thrasher, S., & Niu, C. (2017b). Conceptualizing effective foster parent mentor programs: a participatory planning process. *Children and Youth Services Review, 73*, 411-418.
- Noble, L. S., & Euster, S. D. (1981). Foster parent input: A crucial element in training. *Child Welfare, 60*(1), 35-42. Retrieved from <https://www.proquest.com/scholarly-journals/foster-parent-input-crucial-element-training/docview/75589405/se-2>
- Pasztor, E. M., & McFadden, E. J. (2006). Foster parent associations: Advocacy, support, and empowerment. *Families in Society, 87*(4), 483-490.
- Pasztor, E. M., Hollinger, D. S., Inkelas, M., & Halfon, N. (2006). Health and mental health services for children in foster care: The central role of foster parents. *Child Welfare, 85*(1), 33-57. Retrieved from <https://www.proquest.com/scholarly-journals/health-mental-services-children-foster-care/docview/213808712/se-2>
- Spielfogel, J. E., Leathers, S. J., Christian, E., & McMeel, L. S. (2011). Parent management training, relationships with agency staff, and child mental health: Urban foster parents' perspectives. *Children and Youth Services Review, 33*(11), 2366-2374. Retrieved from <https://www.proquest.com/scholarly-journals/parent-management-training-relationships-with/docview/1835551230/se-2>
- Zlotnick, C., Kronstadt, D., & Klee, L. (1999). Essential case management services for young children in foster care. *Community Mental Health Journal, 35*(5), 421-30.
- Rhodes, K. W., Orme, J. G., & Buehler, C. (2001). A comparison of family foster parents who quit, consider quitting, and plan to continue fostering. *The Social Service Review, 75*(1), 84-114. Retrieved from <https://www.proquest.com/scholarly-journals/comparison-family-foster-parents-who-quit/docview/195708589/se-2>
- Rindfleisch, N., Bean, G., & Denby, R. (1998). Why foster parents continue and cease to foster. *Journal of Sociology and Social Welfare, 25*(1), 5-24.

・その他参考文献

Adoptive and Foster Family Coalition New York. (n.d.). Retrieved January 5, 2022 from <https://affcn.org>

- Annie E. Casey Foundation. (2002). *The Recruitment, Training, and Support: The Essential Tools for Foster Care*. Retrieved from <https://www.aecf.org/resources/recruitment-training-and-support-the-essential-tools-of-foster-care-1>
- 栗津美穂 (2017) 米国の養子縁組とパーマネンシーの保障, 子どもの虐待とネグレクト, 19(1), 29-37.
- Bilaver, L. A., Paula, K. J., Koepke, D., & Goerge, R. M. (1999). The health of children in foster care. *Social Service Review*, 73(3), 401-417.
- California State Foster Parents Association, Inc. (n.d.). Retrieved January 5, 2022 from <https://www.csfpaonline.org>
- Children's Defense Fund. (2021). *The State of America's Children 2021*. Retrieved January 4, 2022 from <https://www.childrensdefense.org/wp-content/uploads/2021/04/The-State-of-Americas-Children-2021.pdf>
- Colton, M. J., Margaret, W. (Eds.) (1997). *The world of foster care: an international sourcebook on foster family care systems*, Arena. (マシュー・コルトン, マーガレット・ウィリアムズ編, 庄司順一監訳 (2008) *世界のフォスターケア—21の国と地域における里親制度*, 明石書店.)
- Fees, B.S., Stockdale, D.F., Crase, S.J., Riggins-caspers, K., Yates, A.M., Lekies, K.S., & Gillis-Arnold, R. (1998). Satisfaction with foster parenting: Assessment one year after training. *Children and Youth Services Review*, 20, 347-363.
- 伊藤嘉余子 (2016) 里親の支援ニーズと支援機関の役割—里親アンケート調査結果からの考察, *社会福祉学*, 57(1), p.30-41.
- National Foster Parents Association. (n.d.). Retrieved January 5, 2022 from <https://nfpaonline.org>
- Rhodes, K. W., Orme, J. G., Cox, M. E., & Buehler, C. (2003). Foster family resources, psychosocial functioning, and retention. *Social Work Research*, 27(3), 135-150.
- 佐藤みゆき, 松澤佳奈 (2017) S市における重層的里親支援—養育里親へのインタビュー調査から, *名寄市立大学社会福祉学科研究紀要*, 6, 65-79.
- 澁谷昌史 (2010) 養育里親への支援, *世界の児童と母性*, 69, 25-28.
- U.S. Department of Health and Human Services, Office of the Inspector General. (2002). *Recruiting foster parents*. Retrieved January 6, from <http://oig.hhs.gov/oei/reports/oei-07-00-00600.pdf>
- U.S. Department of Health and Human Services Children's Bureau. (2021). *The AFCARS Report, 28*, Retrieved January 12, from <https://www.acf.hhs.gov/sites/default/files/documents/cb/afcarsreport28.pdf>
- U.S. Department of Health and Human Services Children's Bureau. (n.d.). *State Foster/Adoptive Family Associations/Coalitions*, Retrieved January 6, 2022 from https://www.childwelfare.gov/organizations/?CWIGFunctionsaction=rols:main.displayList&rolType=Custom&RS_ID=32